

デザイナーのための経済コラム(45)

再び、「個人情報保護に関する法律」、「個人情報保護に関する法律施行令」、「ガイドライン」について

ガイドラインが作られています。要点は「配慮すべき個人情報かどうか」、「取り扱い、管理が適正か」です。それらは一律ではなく、状況(TPO、5W1H)によって変わってくるとされています。

個人情報の内容はタマネギのように外側から内部へと多層な構造になっています。

その情報によって個人が特定することができる情報です。名前が伏せてあっても、誰のことか判れば、その情報は個人情報になります。仮名、同姓同名であっても、誰のことか判ればそれは個人情報になります。内側の層になればなるほど、あまり他人が知らないこと、知られたくないこと、財産、経歴などになっていきます。一番奥、深層になると、他人が簡単には判らない、知ることができない遺伝子情報DNAや信条、名誉心などになります。

表層的個人情報	中層的個人情報	深層的個人情報
顔・名前・住所・電話番号 e-mailアドレス・性別・年代 職業など	家族構成・マイナンバー 家計費・健康状態・国籍 本籍など	銀行口座・出自・DNA・財産・権利・人権 経歴など
* 日常生活に必要な情報 * コミュニティ活動に必要な情報	* 徴税に必要な情報 * 福祉に必要な情報 * パスポート取得に必要な情報	* 医療、資産管理などに必要な情報

被害の始まり、入口になる ← 個人情報 が 漏洩し悪用されると → 広域、長期、被害甚大になる可能性大

個人情報を適度に社会に開示しなければ社会は円滑に回りません。最低でもタマネギの外側を見せないと存在することすら判りません。古今東西女性の名前は個人情報として明かにしてはいけないものの一つでした。万葉集には男性が見染めた女性の名前を尋ねる歌があります。現代でも「君の名は」と尋ねています。

個人情報の集め方にも自然に集まるものから法的に強制されるものまでグラデーションになっています

コミュニティの中の付き合いから互いに自分のことを話すことで個人情報が集まる。 地域自治会 グループ活動	行政・組織から求められて自分の個人情報を提出する。	医療のためにデータを取られる、治安のため、徴税のためなど強制的に個人情報が取られる。
---	---------------------------	--

情報は集まりやすく、管理がゆるい。 ↔ 情報は集めにくいから権威がある。管理も厳しい。

コミュニティではお互いが個人情報を持ち合っていることで成り立ちます。古い社会では自由が束縛されます。新しい社会を作ろうとすると、互いの個人情報は最小限にしようとします。その結果、自由にはなったけど、人間関係の絆は弱く、浅いものになっていきました。それがコミュニティ・共同社会の脆弱化をもたらしているように思えます。個人や組織、集団の防犯や防災に備える互助の意識も萎縮していくのが判ります。

「個人情報保護に関する法律」を丁寧に読むと、「個人情報の保護」に拘泥することの弊害を心配しています。親しい人、密接に活動している人同士の人間関係と、その対極にある関わりたくない人たちとの関係は白か黒かのような二極にあるのではなく、白から黒に至るまでのグラデーションになっていると思います。同じ組織、グループ、共同体の構成員同士であってもその濃淡は一樣ではないはずで、このような社会を是認するかしないかということではなく、このように社会が変容していると認識することが、現代の生き方というべきなのかと思えます。

個人情報の使用目的範囲は情報を持っている人・組織が責任を持って決める。(問題があれば公的第三者が適正を判断)

本人了解のうえ本人・家族の利益のため・公的な業務のため	関係ない人・組織	本人・家族の利益に反することのため
本人が所属し了解した組織活動のため	関係ない活動のため	公序良俗に反することのため
本人が了解した事業活動のため	了解しない事業のため	他人の不利益になることのため

* 適法・この範囲でもグラデーションがある ← → * ダメ(違法となる)(犯罪となる)

少子高齢化、経済格差拡大、多様なライフスタイル、LDBTS、ヘイトクライム、政治への無関心化、非対面犯罪、入社直後の退職など、これまでになかった社会状況がうまれてくるのはこのような大きな流れの一場面なのかも知れません。一つの法律が制定されなければならなかった背景とその影響から、21世紀の情報革命に匹敵する大きな社会変動が進行しているのかもしれない。または、情報革命が引き起こした社会変容の一つといってもいいかも知れません。

(T.K.)